



仙臺古名家真蹟書画

SENDAIKOMEIKASHINSEKISYOGA

担当 奈良輪俊幸



失われた資料
も収録！

- 寸 法：(左)幅26.2cm×高さ37.2cm
×厚さ3.5cm
(右)幅13.6cm×高さ20.4cm
×厚さ0.8cm

● 材 質：紙、糸

● 刊行年：1892(明治25)年

バラエティーに富んだ、ユニークな資料集

歴代藩主以下仙台藩ゆかりの著名人の書状など69点を収録し、考証を加えた書画類の複製本です。仙台で出版・書店業を営み、郷土資料の蒐集家でもあった伊勢齋助が編集しています。石版刷という方法で印刷した本編と、元仙台藩士一條十郎による翻刻と解説を掲載する付録からなっています。

このスタイルは、明治20年代に内閣臨時修史局が編さんした『史徴墨宝』を手本にしたものと思われます。また、元資料の墨色の濃淡や料紙の破損状況が再現され、用紙には越前奉書紙を使用するなど、細部にこだわりが見られます。

現存する書状などと比較すると、忠実な模写であることが確かめられます。収録された書跡のなかには現在所在不明のものもあり、当時の所蔵者が明記されていることから、その資料的な価値はとても高いといえます。

伊勢齋助と仙台的郷土史研究

伊勢齋助は、江戸時代の後期、仙台の有力な版元・書店であった伊勢屋安右衛門の4代目として生まれました。明治に入り、時代の流れに乗り遅れた仙台の版元が凋落していくなかで、齋助は静雲堂伊勢安書店の店主として、明治時代の仙台郷土史を出版の面から支えています。

齋助の功績としてよく知られているのが『仙台叢書』の出版です。1893・94(明治26・27)年に刊行されたこの資料集は、齋助が仙台叢書出版協会を組織し、仙台藩政時代の書籍などのなかでも特に重要と思われる資料を翻刻したものでした。自らの戒名を「仙台叢書居士」とし、墓石に刻ませたことから、彼の熱意がうかがえます。この事業は、齋藤報恩会の助成を受けて行われた、同タイトル『仙台叢書』の出版(大正後期～昭和初期)へと受け継がれていきました。

『KOREMITE』vol.5で紹介した郷土史家・常盤雄五郎は、実家が伊勢安書店の近所にあり、齋助の跡継ぎだった政吉とも親しかったために、仕事を依頼し合う仲であったと、のちに回想しています。

引用・参考

- ・菅野正道 2011 「遠藤家文書・中島家文書と戦国の南奥羽」『伊達氏重臣遠藤家文書・中島家文書～戦国編～』 白石市歴史文化を活用した地域活性化実行委員会
- ・菊田定郷 1974 『仙台人名大辞書』 歴史図書社(初出:1933年)
- ・小井川百合子 1982 「仙台の書肆について—西村治郎兵衛、西村治右衛門、伊勢屋半右衛門、伊勢屋安右衛門—」『仙台市博物館調査報告書』第2号 仙台市博物館
- ・鈴木省三編 1892 『仙台史伝』(初版) 伊勢齋助
- ・常盤雄五郎 1991 『本食い蟲五拾年』復刻版 今野印刷(初出:1956年)
- ・渡邊洋一 2010 『仙台の出版文化』 大崎八幡宮仙台・江戸学実行委員会

片倉小十郎
景綱書状の複製
も収録！

